

大学改革シンポジウム 議長サマリー 「研究大学の再々定義」

- ・ **大学人自らの内発的な力による「真の意味での競争的研究」の樹立を目指す。**
大学人によるアカデミア、大学、高等教育のグランドデザイン
- ・ **研究大学のマインドセットを公的資金のみの呪縛から解放する。**
民間資金：共同研究の大型化、寄付の拡大、授業料の引き上げ
公的資金のインセンティブとディスインセンティブ：
→成果に対する公的資金の増額と停滞に対する減額
- ・ **投資先としての研究大学というグローバルな地位の確立が急務である。**
民間資金のみならず外国資金からの投資を呼び込む必要
国立大学への国内外の資本の導入に伴うガイドラインを国は整備する必要
- ・ **日本の研究大学の潜在的シーズと産業界・社会のニーズをマッチングする。**
その際、活力ある市場競争を促進すべく官民の役割分担を確保する
研究大学ならびに研究法人が有するシーズのデジタル型の見える化
シーズ・ニーズマッチングのクリアリングハウスとしての政府の役割
Society5.0 という世界観における大学（研究シーズ、人材シーズ）の役割
- ・ **大学改革産官学支援フォーラム（仮称）を設立する。**
プレミアム・ユニバーシティを志向する大学を対象に、投資先としての大学、真の意味での競争的研究確立の司令塔的フォーラムとして機能
産業界、研究大学、行政のリーダーの討論の場
産官学、大学間、領域間の垣根を取り払う
研究大学には国立のみならず私立大学も対象
エビデンスに基づく大学経営をサポートする
開放性、国際性、しなやかさ、流動性の仕掛け